

■飛田徳洲(忠順)
とびたすいしゅう
帝国大学始・1886=

野球監督、評論家。アマチュア野球育成に生涯、プロ野球は一度も見ず、“一球入魂”がシンボル。

茨城県水戸南部の大場で、佐竹氏の一族で維新後帰農し、酒造業で成功するも酒税法違反で手を引いた豪農飛田忠兵衛の次男に生まれる。

帝国憲法発布1889= 3歳：この年、父が初代の大場村村長となり、

日清戦争始・1894= 8歳：

日清戦争終・1895= 9歳：この年、中馬庚の著書のタイトルで、初めて“野球”の語が使われる。

白馬会・・・1896=10歳：この年、父が村長を辞任。長塚節の弟順次郎が中心選手の水戸中学が宇都宮中学と激戦、引分け。

八幡製鉄始・1897=11歳：大場小学校尋常科から高等科に進学。鹿島神宮神幸祭に父に連れられ、飛び入りで参加した弓道大会で、唯一の少年ながら、金的を射止めて新聞に掲載され、弓の名人として知られるようになる。

子規句歌革新1898=12歳：生徒急増で二部授業となったため、大洗高等小学校に転校。正規のベースボールを教えられ、

田中正造直訴1901=15歳：水戸中学に進学。無名ながら長塚順次郎に育成された下妻中学に敗れ、“仇討ちの野球”が始まる。

教科書疑獄・1902=16歳：文芸活動にも参加し、同人誌に盛んに投稿、

日比谷公園・1903=17歳：幹事を引受けた頃から、徳洲と号する。野球では代表チームの一員となり、上京して、下妻を破った郁文館中学と対戦し勝利すると、慶応義塾に押しかけ、当然ながら大敗すると、“打倒慶応”を誓う。

日露戦争始・1904=18歳：土浦中学の提唱で、初の県下大会が開催され、3校だけの参加に、苦しみながら優勝、以後5年連続優勝。

日露戦争終・1905=19歳：*主将になり、東京遠征を願い出ると、校長自ら饂の100円を出してくれ、慶応にも勝利して仇討ちに成功。この前後から、野球が水戸中学の校技となり、黄金期を迎える。

満鉄発足・・・1906=20歳：卒業するが、この年設けられた補習科に残り、主将。この年、早慶戦が感情的に過熱し、ついに中止。

韓国反日暴動1907=21歳：修了し、創立25周年で校歌制定された早稲田大学に入学し、安部磯雄の薫陶を受ける。野球に力が入らず、脚氣と判明、帰郷して全快し、早大に復帰。ワシントン大学が招請されるも、出場できず。

アヲヲ創刊・1908=22歳：水戸中学校長が対外試合禁止したことに愕然とし、新聞に反論を書くも無視され、水戸中野球部は衰退、

韓国併合・・・1910=24歳：選挙で、野球部主将となり、初戦で、最強といわれた一高に勝利。安部の2度目の海外遠征に率いられて、渡米し、25戦12勝12敗1分で帰国後、シカゴ大学を迎えて、惨敗し、新聞紙上でバッシング。

大逆事件判決1911=25歳：この年、{東京朝日}が野球害毒論を始めると、野球部先輩押川清の兄春浪が真っ向から反論、それを受けて{読売}が対抗し、{東京朝日}は部数激減で敗退。

明治天皇没・1912=26歳：

大正政変・・・1913=27歳：卒業し、春浪が主宰する雑誌{武俠世界}に入社するが、

第一次大戦始1914=28歳：春浪が死去すると、退社し、{読売新聞}に入社。田中正造の運動を助けていた許婚の土信田ひろと結婚。

本格政党内閣1918=32歳：軍部介入で自由がなくなり、この年、{大阪朝日}で白虹事件が起きたのを見るに及んで、

ベルサイユ条約・1919=33歳：シカゴ大学への仇討ちを果たすべく、退社。

大暴落・・・1920=34歳：この年、水戸中の野球の友後藤藤三が、シベリア出兵で戦死。合資会社日本運動協会が設立される。_早大野球部初代監督となり、来日したシカゴ大学に勝利。来日したアメリカのプロ・チームの指導を受ける。

原敬首相暗殺1921=35歳：渡米し、排日運動のなか、恒例となったシカゴ大学戦では現地で初勝利するも、各地の対戦は38戦15勝23敗。早大野球部の黄金時代を迎え、運動協会によって、早慶0Bの三田・稲門戦が開催され、人気を沸騰、

水平社結成・1922=36歳：

関東大震災・1923=37歳：関東大震災で、運動協会は解散するが、

護憲三派圧勝1924=38歳：早慶戦復活が強く望まれるようになり、

治安維持法・1925=39歳：*早慶戦がようやく再開、爆発的人気を呼ぶ。水戸中学校長も替わって、ようやく野球部が復活。宿敵シカゴ大学にも圧勝すると、引退を決意。「早稲田大学野球部史」。

円本時代始・1926=40歳：*{朝日新聞}に入り、以後毎年、中等野球全国大会で甲子園に駆けつけ、試合評に熱筆を振るい、春の選抜大会、東京六大学野球にも、愛情あふれる文章を綴り、

金融恐慌・・・1927=41歳：「ベースボール攻撃篇」。

共産党事件・1928=42歳：「ベースボール外野及び練習篇」「ベースボール内野篇」「野球生活の思ひ出」。

満州事変・・・1931=45歳：「野球人国記」。

五一五事件・1932=46歳：安部磯雄らとともに、野球統制臨時委員に就任し、同年発令の文部省訓令作成に携わるが、

帝人疑獄事件1934=48歳：「熱球三十年」。

日中戦争始・1937=51歳：

統制が強まるにつれ、文部省を批判するようになり、

健保+総動員 1938=52歳：「スポーツ私論」で、_’欧米のものを排撃するなら、鎧兜に槍薙刀で戦うのが’と野球を擁護、

大政翼賛会・1940=54歳：「野球清談」。

日米開戦・・・1941=55歳：日米開戦で中断、

創価学会検挙1943=57歳：_戦時学徒体育訓練実施要綱について禁止され、小泉信三らと存続運動するも空しく、学生の徴兵猶予廃止になると、最後の早慶戦実現に奔走し、早大自身は最後まで練習を続けて、野球部を守り抜く。

敗戦・・・1945=59歳：_敗戦となり、全て復活すると、

新憲法公布・1946=60歳：_日本学生野球協会の創設や「学生野球基準要綱(のちの日本学生野球憲章)」の作成に尽力し、ノック・バットを持って全国行脚し、各校に練習再開を呼びかけ、甲子園大会を大イベントにして行く。

極東裁判決・1948=62歳：「野球道」。

三大事件・・・1949=63歳：この年、生涯の師安部磯雄が死去。

独立回復・・・1951=65歳：「球道半生記」。

この間、郷里大場村村長にも就任、

国連加盟・・・1956=70歳：_毎日スポーツ賞。

なべ底不況・1957=71歳：_紫綬褒章。

インストメン 1958=72歳：_朝日文化賞。

安保闘争・・・1960=74歳：_アマチュア野球界からの特別表彰で、河野安通志とともに、野球殿堂入り。「飛田徳洲選集」全6巻。

全国総合計画1962=76歳：_NHK特別番組「学生野球と60年」が放送され、

東京リビッパ 1964=78歳：_最後まで、甲子園観戦を続け、試合評をかかさなかったが、

大学紛争始・1965=79歳：_持病の心臓病が悪化し、没した。